

2026 年度



6月 園だより

社会福祉法人雲柱社
五日市保育園

寒暖差の大きい日が続いています。半袖姿での子どもたちからは早くも梅雨を通り越して夏の気配さえ感じます。これからまた、季節がゆっくりと移り変わっていくことでしょう。

今月は、キリスト教保育の大切な行事の一つ「花の日」があります。色とりどりのお花を持って、お世話になっている交番や高齢者施設の皆さんのもとへ「いつもありがとう」を届けに訪問します。施設では毎年、歌のプレゼントもするのですが、子どもたちの可愛い歌声やお花を渡す姿に嬉しそうに涙ぐまれる方がたくさんいらっしゃいます。「お歌、喜んでくれたね」と誰かを笑顔にできた喜びを実感できる経験は子どもたちの心にも優しい光を灯します。今年も地域の方々とのあたたかい触れ合いを大切に見守っていきたいと思います。

私の目には、あなたは高価で尊い。私はあなたを愛している。

(イザヤ書 43 章 4 節)

「自分らしさ」



「自分らしさ」とは、何かが得意だったり、上手にできることだけではなく、嬉しいと感じる心、じっくり考える姿、少し恥ずかしがりながらも関わろうとする思いなど、その子ならではの感じ方や表し方の中にあるものだと考えています。

園では、みんなと同じであることを求めるのではなく、一人ひとりの考え方や感じ方、表現の仕方、一人ひとりの歩みを受け止めながら、「そのままのあなたが大切だよ」という思いを日々の関わりの中で伝えていきたいと思っています。

また最近では、海外からの留学生の方々も園に遊びに来てくださり、子どもたちと交流する機会があります。いろいろな国の言葉で絵本を読んでもらったり、一緒に「だるまさんがころんだ」を楽しんだりしています。言葉や文化、見た目、表現の仕方が違っていても子どもたちは本当に自然に関わり、何より共に過ごす時間を楽しんでいます。

そんな姿から、違いやその人らしさを自分とは違うものとして構えるのではなく、「いろいろな人がいていい」「いろいろな人がいてこの社会や世界がある」「違うことって素敵なこと」と受け止められる力が、日々の出会いの中で育まれていることを感じます。

小さいころから多様な人と関わる経験は、自分らしさを大切にすること、そして相手のその人らしさも大切にすることへと繋がっていきます。

これからも神さまから愛されている一人ひとりとして、互いの違いを認め合いながら、あたたかな関わりを重ねていきたいと思っています。

(園長 関根富美子)

